

試作成績からみたワセスズナリ (だいず東北70号) の特性

長 沢 次 男 ・ 国 分 喜 治 郎 ・ 村 上 昭 一 ・ 橋 本 鋼 二

(東北農業試験場)

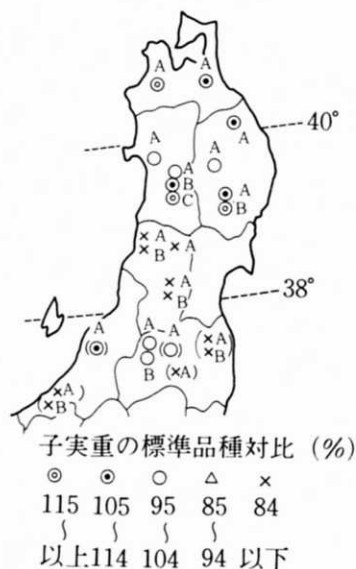
Characteristics of Wasesuzunari, Daizu Tohoku 70, a New Soybean Variety
 Tsugio NAGASAWA, Kijiro KOKUBUN, Shoichi MURAKAMI and Koji HASHIMOTO
 (Tohoku National Agricultural Experiment Station)

1 緒 言

ワセスズナリは、オクシロメの優良特性を保持した早生種の育成を目標として、昭和50年農業技術研究所放射線育種場に依頼して、オクシロメの気乾種子に γ 線10KRを照射し、以後、東北農業試験場刈和野試験地でM₁個体を養成し、引続いて1株1粒法¹⁾を適用してM₂個体の養成と早熟な変異個体の選抜を行った。更に優良系統の選抜・固定を計り、53年に刈系142号、55年にM₆代で東北70号の系統名を付け、各地で試験が行われた。58年5月にワセスズナリと命名、だいず農林78号として農林登録された。

2 各地の試験成績の概況

ワセスズナリは、宮城県を除く東北5県と栃木県の11場所において2箇年以上、その他9場所において1箇年の試作が行われた。図1に各地の標準品種との収量比較を要約して示した。青森、岩手、秋田3県の場所では、早生種として収量性があり、品質も比較的優れている。しかし、北緯39°以南の場所の一部では障害粒、品質などについて問題があり、収量についても劣る場合が多い。



2 箇年以上の試作地、ただし()内は1 箇年。A: 標準播き, B: 晩播き, C: 転換畑標準播き

図1 ワセスズナリの試作地における標準品種との収量比較

3 育成地の試験成績

標準播 (5月28日前後) と、晩播 (7月1日前後),

表1 育成地における試験成績

栽培条件	品 種 名	開 花 期 (月日)	成 熟 期 (月日)	主 茎 長 (cm)	分 枝 数	生育中の障害		a 当り収量(kg)		子実重対比(%)		百 粒 重 (g)	障 害 粒 程 度			品 質
						蔓 化	倒 伏	全 重	子 実 重	標 準 品 種	十 勝 長 葉		紫 斑	褐 斑	裂 皮	
標準播	ワセスズナリ	7.17	9.17	42	2.1	無	無	33.7	19.7	102	115	19.7	少	無	無~微	中中~中下
	ワセシロゲ	7.29	9.23	61	3.1	無	無~微	38.1	19.4	100	113	21.1	微	無	無	中上
	十勝長葉	7.21	9.24	43	1.8	無	無	31.9	17.2	89	100	17.0	微	少~中	無~微	中中~中下
晩播	ワセスズナリ	8. 7	10. 5	42	1.2	無	無~微	29.4	17.1	111	104	19.9	微	無	無	中上
	ワセシロゲ	8.12	10.10	58	2.4	無	無	29.3	15.4	100	94	20.5	微~少	無	無	中上~中中
	十勝長葉	8. 9	10.10	46	1.5	無	無	29.9	16.4	106	100	16.5	少~中	少	無	中中~中下
転換畑	ワセスズナリ	—	—	54	3.0	微	微~少	53.4	30.8	124	119	23.0	微	無	無~微	中上
	ワセシロゲ	—	—	84	4.1	中	中~多	53.5	24.9	100	96	23.0	無~微	無	無	中上~中中
	十勝長葉	—	—	49	2.8	無	無~微	47.6	25.9	104	100	19.8	微	多	無	中下~下

注. 昭和55 ~ 57年平均

転換畑 (6月5日前後) の試験成績を表 1 に示した。

標準播における開花期の平均は 7月17日で、十勝長葉より 4 日、ワセシロゲより 12 日早い。成熟期の平均は 9月17日で、十勝長葉より 7 日、ワセシロゲより 6 日早くなっている。晩播では、開花期の平均は 8月7日で、十勝長葉より 2 日、ワセシロゲより 5 日早い。成熟期の平均は 10月5日で、十勝長葉、ワセシロゲより 5 日早くなっている。

成熟期の早晚については、東北北部では“早生”，東北中部以南では“極早生”種にあたる。

標準播，転換畑を通じ，主茎長は，十勝長葉と前後する短茎で，分枝数も十勝長葉程度の“少”である。蔓化・倒伏の程度は，標準播では通常認められない。しかし，肥沃な転換畑では，ワセシロゲより倒伏は少ないものの十勝長葉より多くなっている。

子実収量の平均は，標準播でワセシロゲより 2%，十勝長葉より 15%，晩播ではワセシロゲより 11%，十勝長葉より 4%，なお，転換畑ではワセシロゲより 24%，十勝長葉より 19%，それぞれ増収している。

4 主要病害抵抗性

(1) ウイルス病抵抗性：表 2 に示した 3 場所ではウイ

表 2 早生品種の比較試験における
子実収量と褐斑粒の発生程度

品 種 名	青 森 農 試 (標準播)			岩手県南分場 (晩播)			岐 阜 高冷地 (晩播直播)
	成 熟 期 (月日)	子 実 収 量 (kg/a)	褐 斑	成 熟 期 (月日)	子 実 収 量 (kg/a)	褐 斑	褐 斑
ワセズナリ	9.21	34.7	無～微	10.20	21.7	無	無
キタコマチ	9.14	24.5	微～少	10.16	17.4	中	多
キタムスメ	—	—	—	10.22	17.7	中～多	甚
トヨスズ	—	—	—	10.26	16.7	中	中
ヒメユタカ	9.18	32.3	少～中	10.27	17.1	中～多	多
ユウヒメ	9.21	29.8	中	10.27	17.3	中	中
白目長葉	—	—	—	10.30	15.0	無～微	—
ムツメジロ*	10.1	26.7	甚	—	—	—	—
ナンブシロメ	—	—	—	10.29	15.6	無	無

注．青森農試は昭和 55～57 年平均，*印は 55～56 年平均，
岩手県南分場は 55～56 年平均，岐阜高冷地は 57 年のみ。

ルス病に起因する褐斑粒の発生が北海道の品種や，青森，岩手の早生の奨励品種に多くみられたが，ワセズナリやナンブシロメなどダイズモザイクウイルスの A 及び B 系統に抵抗性を有する品種については褐斑粒の発生がほとんど認められなかった。また，ワセズナリと成熟期が相前後する品種は，青森，岩手県南のいずれでも収量が低かった。しかし，ダイズモザイクウイルスの C 及び D 系統の発生する山形県や，福島県の内陸部平坦地などではウイルス病に罹病し，褐斑粒が生じる恐れがある。

(2) 線虫抵抗性：ワセズナリは母品種 オクシロメと同様にシストセンチュウ抵抗性が強い。育成地で線虫生息密度の高い圃場に栽植した成績では，普通圃場と対比して抵抗性のないワセシロゲの平均収量は a 当り 15.0 kg，31% 減，十勝長葉は 9.5 kg で 51% 減に対して，平均収量 16.9 kg，24% 減にとどまっている。

5 総 括

シストセンチュウ抵抗性を有し，かつダイズモザイクウイルス A 及び B 系統にも抵抗性のある早生種は，本品種が最初のものである。しかも生育期間の短い割に多収である。

気象条件がきびしく制約の多い北東北において，広く麦の前作に用いる大豆品種として，また，岩手県南部の一部では大豆・小麦の 1 年 2 作体系を可能にする品種として，本品種の特性を生かした栽培法が普及することが期待される。

本品種栽培上の一般的な注意事項としては，①極端な多肥密植栽培は蔓化・倒伏を助長するので避ける，②栽培地域に適合した栽植本数を十分確保する，③生育量が小さいため欠株を生じると減収しやすいので欠株をなくすようにつとめる，④小麦跡などの晩播栽培では，収穫後できるだけ早く播種する，などがある。

引 用 文 献

- 1) 吉田美夫．自殖性作物の種子照射後における放射線育種の方式に関する理論的研究．九州農試彙報 13, 207～270 (1968)．